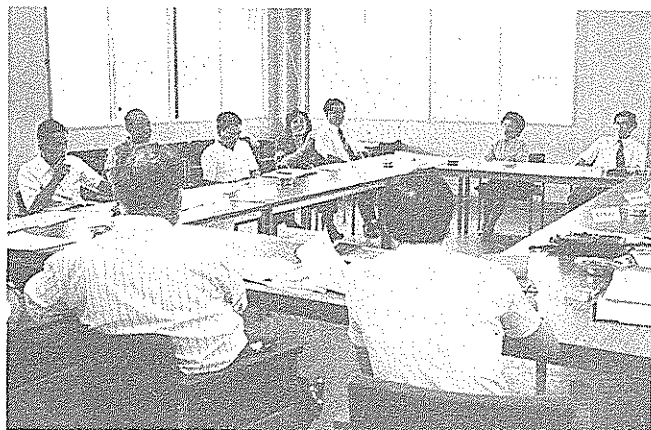


夏休みは家庭教育の場

親はもつと強く、きびしく
自信をもつて子供を指導しよう

先日、市内中学校の二年生、各級各級計士名に、中学生から見た「自分たちや大人のこころ」などを話し合っていました。今回は視点を交え、「大人と子ども」「親と子」「子どもと子ども」を大人から見てもよいと、中学校の先生、父兄、それに教育委員会や警察にも出席していただき、話し合っていました。



広報座談会 中学生を考える

■司会：今日は学期末など何かとお忙しいところ、ご出席くださいます。ありがとうございます。子どもについての諸問題は、この会では到底解決できるものではありません。今回の目的は、この会のみならず、広報紙を通じて市民のみなさんにお知らせし、子どものことをよく考えていただくということ。日頃考えられていることを気軽に話していただきますようお願いいたします。

まず、今の親と子の関係をどのように思われていますか。

▼今の子どもは経済的に恵まれていると思います。そのためにありがたいうい感謝の心が少なく、物を大切にしないようです。昔は子どもが親の苦しさをよくみてきたように思う。そういうなかから、親への感謝や労いのねうちなどの心が芽ばえたとする。

▼親がわりあい簡単に金を与え、子どもの方もそれを当り前のこととして受け取っているようですね。

▼生活していくなかで、一本すじの通ったものが親から子に伝えられているでしょうか。

出席者

《先生》
山本啓一（北陵中）
福川秀武（鷺ヶ池中）
中沢盛得（香南中）
佐野 守（香長中）
《父兄》
岡村 民（北陵中）
片岡宣子（鷺ヶ池中）
小田吉高（香南中）
満洲 勇（香長中）

教育委員会
補導センター
南国警察署
広報委員

してじっくり落ちついて、その生徒の個性の奥までみつめてつきあうという時間は確かに少ないです。

▼子どもは親との接点のなかで「親をテストしている」と思っています。それに対して親が多忙なことであつて、ゆるやかな答えがでないことが多いのでは……子どもに信頼されない親を無視するという悪い循環が今の多くの親子関係の内容だと思っています。



■司会：子どもの教育には、大きく分けて学校教育と家庭教育とがあると思います。学校と家庭の責任分野と実際についてはどうでしょうか。

▼家庭教育で教育すべき分野を学校へ頼みすぎていると思います。例えば、学校ではプールで水泳を教えます。そしてある日川で泳がせた

ところかなりプールでは泳げる生徒が、水流などの水の変化についていけず溺れかかりました。これは学校の責任でしょうか。インペーダーの問題にしても多くの父兄がまず学校の方針は、と聞きます。一番に子どもと家庭で話し合うべきだと思えます。

子どもの教育は①親（家庭）②学校の順位でなされるべきだと思います。親はほんとうに忙しいけれども、子どものことについては必死になって指導するべきです。

▼はつきり家庭と学校に区別できないもの、両方で指導しなければならぬものも多くあるようです。あまりはつきりした一線をひくことも用心する必要があります。

▼そのためのPTA組織がありますので、効率的な運営をしていただきたいものです。どうかすると財政面へその力が傾むくくらいもあるようです。

▼親がテストの成績に力を入れすぎて、人間形成という大きな問題を少し軽んじている気もします。PTA組織をフルに活用していくことが「子どもの問題」解決への一番近道ではないでしょうか。

▼体力的にも昔と比べて落ちていく理由ですが、その原因は親の過保護だと思えます。雨が少しふれば車で送り迎えしたり、遊びに行

くにも同伴したり、家事も分担していない（手伝わさない）親が多いようです。こんなことでは、体力だけでなく子どもの将来にも悪い影響を与えていると思います。親が子どもをどう指導するか目的や手段が親に十分わかっていないでしょうか。



■司会：お話をうかがっていますと、どうも感心できない子どもの問題をつくった原因は「親」であり「大人」のようですね。特に親が子どもを指導しなければならぬことがはつきりしてきましたが、指導するために親はどういうことに気を付けるべきでしょうか。

▼親がもつと強く、きびしくあるべきです。学校で少しきびしくすると父兄から苦情が来ます。学校もそうすると父兄の要望に近い教育をせざるを得ません——子どもがだんだん弱くなるということもあります。

▼今の親は昔のように「しつけ」というものをしていないのではないのでしょうか。親子の新しい「きずな」づくりのためには、子どもと行動を同じくし、親の体験などにより、親が指導力をつける必要があります。



■司会：職業もふくめて、どんな人間になつてもらいたいですか。

▼人の世話ぐらいいはできる人間に。

▼人と接する商売なので、好感の持たれるような人間に。

▼自分の好きな道なら結構ですが、できれば人間相手の職業についてくれることを願っています。



■司会：中学生の熟達、特に高校受験のための熟達についてのご意見をお聞かせください。

▼子どもが自主的に目的をもって行く分には、それなりの意味があると思います。

▼熱と学校との進路指導がくいちがうことが多いのではないだろうか。うまくマッチするとよいのだが、そうでない場合は子どもや家族は大いに迷うでしょう。

▼親の多くが「まあいけば力はつくだろう」とか、「あそこの子ども



■司会：この会の内容が印刷されて、ご家庭へ届く頃は夏休みも始まっていますが、夏休みは非行の温床ともなります。どのような点に気を付けなければなりません。

▼夏休みは家庭教育の場です。親はしっかりと子どもを見つめて、指導してください。

▼警察は、非行について早期発見、早期指導を心がけています。また、ご家庭や地域への非行防止のPRにもつとめます。

休み中は、共稼ぎの家庭では、先生や友人との接触が極端に少なくなりますが、休みのスケジュールを親子でよく話しあつて作るようにしてください。外出の機会も多くあります。帰宅時間の約束も……。家事の手伝いもできるものはさせましょう。金の使い方も

要注意。それから、もし非行の現場を見たら、その場で注意するなり、必要を感じたら、学校、補導センター、警察へ連絡をお願いします。

▼子どもの行動を親同志がお互いに確認しあうことが必要です。

▼夏休みの過ごし方によって、二学期以降に重大な影響をおよぼすこともあります。子どもを「孤独」にせず、できるだけ集まる機会を多くつくりたいものです。

▼非行は必ずしも、経済面だけから生れるものではありません。精神面、文化面からも生れます。

子どもとは日頃からの結びつきが大切で「今夜まで泊まっているかわからない」では手遅れではないでしょうか。学校では討論する機会が多いのですが、家庭でも、地域でも、多くの親や子どもが集まり討論することが非行防止への近道だと思えます。

■司会：どうも長時間ご討議いただきましてありがとうございます。子どもの問題の深さと、大人がもつと自信をもたなければ子どもが良くなりません。学歴で地域で、自分の子ども、よその子どもの接触を深める努力を「大人」が実行していくことを願って会を終わりたいと思います。どうもご苦労さまでした。